

読解内容の確認と口頭説明能力の向上に向けた「図解」利用タスク

長谷川 哲子（関西学院大学経済学部）

1. タスク実践の背景

今回の実践は他機関におけるものであるが、対象は学部留学生 1 年および 2 年（日本語能力試験 N1～N2 相当）の学生である。

筆者は上記学生の日本語科目を担当していたが、受講していた学生からは「発表が苦手」「説明がわかりにくいと言われた」「内容は分かっているけど、いざ話すとするとうまく話せない」というような声があがっていた。そこで、こうした学生たちの口頭表現能力にどのような問題が見られるのか、具体的な問題点を明らかにし、その改善を試みることにした。

2. タスクの内容、実施方法

タスクの実践に先立ち、OPI(ACTFL Oral Proficiency Interview)を採用したインタビュー調査を実施し、その結果、話の続け方や終わらせ方が不適切であるというケースが判明した。そこで、自分が読解した内容を説明するというタスクを課すことにした。このタスクにおいては、まず全体的な構成を把握し、話のスタートとゴールを自分で意識して話すことを目的とした。

具体的には、

- ・新書の一部を読解する
- ・フローチャート形式の読解シートを完成させる
- ・読解シートに基づき、自分で説明の構成を考える
- ・自分で考えた構成にそって、説明を行う

という手順で活動を行った。

3. タスク実施後のふりかえり

受講生からは、以下のようなコメントが挙げられた。

- 内容の読解はできるし、自分でも分かっているけれど、自分のことばでは話せない
- 全体が理解できていないと、内容を再構築できない
- 自分では分かっているつもりでも、相手に理解してもらえていないことがある

タスク遂行がうまくいかなかった場合、読解能力、口頭表現能力のいずれに問題があるのかは不明のままに終わってしまった。また、グループワークに積極的に取り組まない学生が見られた。しかし、おおむね大半の学生が上記のような前向きな気づきを得ていた。